

農空間

第56号

発行所
福島県農林水産部
農村計画課

【特集】みんなのため池 防災・減災サポート

地震などへの災害対策を検討するため農業用ため池の一斉点検を実施します。今回は、その取り組みの概要を紹介いたします。

東日本大震災では、東北地方を中心のため池や排水機場などの農業水利施設が被災し、ため池の決壊により人命が失われるなどの甚大な被害が発生しました。このため、早急に施設の現状を確認することが、今後の防災・減災対策を実施する上で重要となっています。

そうした中、平成24年12月に震災対策農業水利施設整備事業が拡充され、ため池の耐震性に関する点検調査



ため池の点検状況

なお、農道の橋梁・トンネルについても、一斉点検と耐震性点検を実施する予定です。今後も、こうした一斉点検を計画的に行うてまいりますので、地域の皆様や関係者の皆様のご協力をお願いいたします。

【農村基盤整備課】

耐震性の点検調査

- ボーリングによる土質の調査
- 安定性の計算・検討 など

必要に応じて

施設・防災設備の整備

- 補強を含めた整備(改修)
- 警報設備などの整備
- ハザードマップの作成 など

施設の一斉点検

- 施設の諸元(寸法や構造などのデータ)
- 漏水の有無、状況
- ひび割れや変形
- 改修の履歴
- 周辺状況 など

県内の約3,000箇所(ため池)で計画的に点検を実施します。

必要に応じて

点検車両による橋の点検



出典：農林水産省「農道保全対策の手引き」

ふくしま復旧便 — 県内からのお便り — いわき

復旧への取り組み パネル展を開催

6月8日から20日までの12日間、いわき市小名浜のいわき・ら・ら・ミュウにおいて、「田んぼのパネル展」を開催しました。

これは、東日本大震災により受けた農業農村の被害状況や復旧に向けた取り組みなどについて、多くの県民の方に知ってもらうため、県内を巡回してパネル展を開催しているもので、今回の展示では、県内の被災、復旧状況に加え、いわき市



大盛況だったパネル展

内の状況についても紹介しました。展示期間中、多くの方がパネル展に訪れ、写真などを興味深く見ていました。展示会場の企画担当者からも継続的な開催要望が出されるなど、大盛況の中で、パネル展を終えることができました。

【いわき農林事務所】

展示したパネル



今日の努力は笑顔あふれる農空間 復興のために

東日本大震災の発生から2年余が過ぎ、昨年度は「復興元年」、本年度は「復興加速の年」と位置付け、これまで県外から多くの支援を受けながら農地・農業用施設の復旧を進めてきました。本年度は相双・いわき管内では場整備、県中で藤沼ダムの工事に、全体的には農業水利施設における放射性物質の拡散防止実証事業に本格的に着手することになります。農業生産基盤が復旧しなければ営農再開はできませんし、本県農業の復興はありえませんが、農家の方々が、笑顔で、夢と希望を持って一日も早く営農再開ができるよう、引き続き努力してまいります。現在の最大の課題はいかに早く大震災の被害を復旧するかと、これに取り組んで行くことが私たちに与えられた最大の使命であり、本県農業は耕作放棄地の増加や生産基盤整備の立ち遅れ、農業水利施設の老朽化など震災以前からの問題も抱えており、これらへの対応も求められております。県では3月に、新たに「ふくしま農林水産業新生プラン」を策定し、「いのちを支え、未来につながる」を基本目標として、平成22年度までに重点的かつ戦略的に取り組む施策の方向を示したところであり、このプランを着実に実行に移して行きたいと考えています。福島の早期復興のために、様々な課題はありますが、



福島県農林水産部次長

(農村整備担当)

後藤 庸貴

相 双

復興の願いを込めて

大震災により破堤した北
海老海岸(南相馬市鹿島区、
相馬市)では堤防の復旧工
事が急ピッチで行われてい
ます。

現在は基礎部の工事を施
工中ですが、地域の復興の
礎となる新たな堤防に復旧
に携わる者として、その思
いを込めたいとの監督員の
発案で均しコンクリートの
下に玉石を並べる事となり
ました。

玉石は北海道海岸で採取
されたもので、全国から派
遣されている「福耕支援隊」
を含む事務所職員及び施工
業者のそれぞれが復旧・復
興の願いを書き入れました。

「一つ一つは決して大き
なものではなく、また形も不
揃いだ、集まれば一つの
力になる」今の事務所を
象徴するような立派な「キ



ズナ堤」となりました。

いずれば基礎工の下にな
り目に見えることはなくな
りますが、それぞれの願い
とともに新たな堤防が未永
く地域の安全を守るよう、
早期の完成を目指し、引き
続き復旧工事を進めていき
たいと思っています。

【相双農林事務所】

トピックス

○農村振興局長賞を受賞

須賀川市の「仁井田の自
然を守る会」が平成24年度
農業農村整備優良地区コン
クール(農林省)の農村整備部門で農
村振興局長賞を受賞しまし
た。

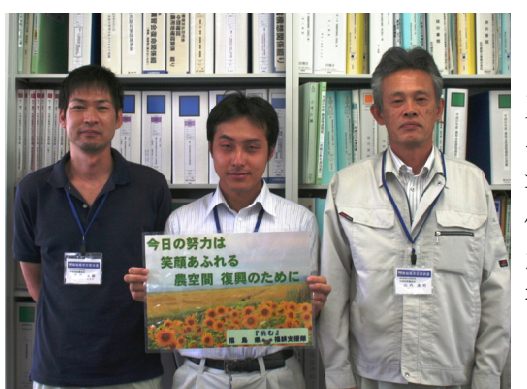
このコンクールは、全国
土地改良事業団体連合会が
主催して、農業農村整備を
契機に農村振興を図る団体
等を毎年表彰しています。

「仁井田の自然を守る会」
は、平成19年度より農地・
水・環境保全向上対策に取

組、集落環境等の課題に
対する地域全体での取組み
が他の地区の模範となると
の評価を受けました。
平成25年3月に東京都に
おいて表彰式が開催され、
その後、会長の影山章さん
と事務局長の藤田忠内さん
が、県庁を訪れ、農林水産
部の畠利行部長へ受賞の報
告をされました。



畠部長 藤田事務局長 影山会長



南相馬市農林水産課の福耕支援隊の皆さん
(農林水産省 中国四国農政局より派遣)

○『福耕支援隊』情報

福島県では、農地や農業
用施設の復旧業務のため、
農林水産省や全国の道県か
ら、太平洋側北部にある相

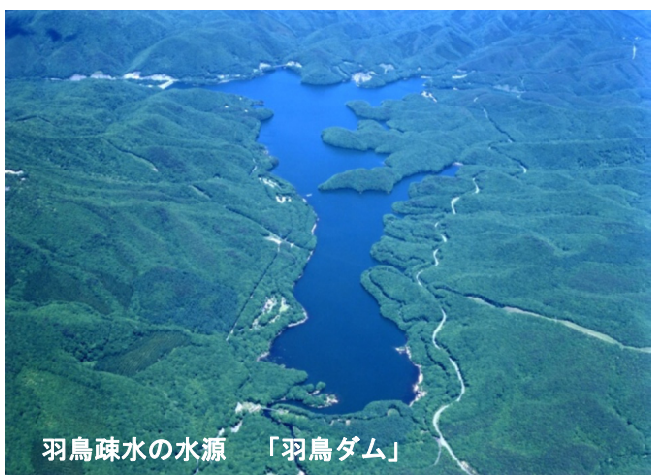
双農林事務所やこの管内の
市町へ派遣いただく農業土
木技術職員の皆さんを
『福耕(ふつこう)支援隊』
と呼んでいます。
故郷を離れ、家族と離れ
ながらも、懸命に本県の農
業農村の復旧・復興にあたっ
ていただいている皆さんの
思いを、今年度より新たに、
福島県の公式フェ
イスブック「ふく
しまからはじめよう」でも、お伝
えます。
皆様からの『い
いね!』をよろし
くお願いします。



地域に根ざした水土里ネット 「震災からの復興」 矢吹原土地改良区 鈴木禎一さん

矢吹原土地改良区は中通
り南部、矢吹町にあります。
受益地は、戦後の「三大開
拓地」に挙げられる「矢吹ヶ
原」台地、基幹施設は「羽
鳥疏水」です。

荒れ果てた耕地であった
矢吹ヶ原一帯の発展は、子
孫の繁栄を願って造られた



羽鳥疎水の水源「羽鳥ダム」

「羽鳥疏水」と先人たちの
「開拓魂」によってもたら
されました。この「羽鳥疏
水」を守り、未来へ繋いで
いくのが私たち矢吹原土地
改良区の役割です。

3.11東日本大震災の被
害で「羽鳥疏水」は通水不
能となり、全組合員は稲作



被害の調査状況

ができない状況に陥りまし
た。先人から受け継いだ命
の水が途切れてしまいました。
しかし、地域の人たちに
たくさんの方の支援をいただき、
地域の施設よりも羽鳥疏水
を優先しての復旧対応がな
された結果、当土地改良区
の地区に緑の田んぼが甦り
ました。地域の人が羽鳥疏
水を思い、支えてくれた結
果だと思っています。感謝
の気持ちでいっぱいです。

地域に対する活動として
行ってきた田んぼの学校も、
震災後は通水ができず、バ
ケツに田植えをする事態と
なりましたが、平成24年度
には無事に児童と共に田ん
ぼの作業を行うことができ
ました。田んぼで見る子供
たちの笑顔は私たちにたく
さんの元気と勇気を与えて
くれました。「羽鳥疏水」
は再び未来に向かって流れ
始めました。

「農空間」とは、
農村において繰り広げられる農業の営み、
それを支える農地や水、人々の生活、そし
て、美しい自然に囲まれ長い間に培われた
伝統・文化などが溶けあった空間のこと
です。

このフレーズができてから、「今日
は、努力したかな」と仕事の帰りに
思うことが多くなり、反省の日々です。
さて、今号より、多くの皆様方に伝
わり、そして親しまれる『農空間』を
目指して、文字の大きさなどを変更し
ました。現状に満足することなく、今
後も努力を重ねますので、皆様からご
意見などお寄せいただければ幸いです。
最後に、今号の発行にあたり、原稿
を執筆頂いた皆様方、ありがとうございました。
(編集担当 Y・M)

編集後記

東日本大震災の
発生から、「まだ
2年」であり、
「もう2年」が経
過にありました。
だに有事が続いて
いる福島県におい
て、農業農村整備
事業及び災害復旧
に携わる福島県職員と福耕支援隊の全
員が、改めて心をひとつにして、全力
で業務に取り組むため、先日、キャッチ
フレーズを掲げました。
「今日の努力は笑顔あふれる
農空間 復興のために」
職員全員が持つカード



笑顔あふれた「田んぼの学校」の収穫

設の復旧はまだですが、
子どもたちの笑顔に『心』
の復興は確実に進んでいる
ことを実感します。これか
らも地域と共にある土地改
良区であるよう尽力してい
きます。